

写真1：大阪市立大学140周年記念講堂
天井は、創建当初の船底(勾配)の形状に復元し、シャンデリアは写真をもとに復元した。ステージ中央の壁面の背後に奉安庫が保存されている。

写真2：講堂で行われた卒業式(1960年)
講堂では記念式典、卒業式、講演会、演奏会などが行われてきた。

大阪市立大学140周年記念講堂

大学の知を発掘
021

1934年に完成した大阪市立大学1号館(大阪商科大学本館)は、「昭和初期モダニズム建築の造形の規範となっているもの」として、2002年に国の登録有形文化財建造物に登録された。

1号館中央に位置する講堂は、創建当初から存在し、式典や講演会などに利用されてきた(写真2)。建設当初は正面にステージが設けられ、奥には奉安庫が納められていた(写真7)。1989年に、断熱性や吸音性を向上するとともに、舞台機能を付加するなど、全面にわたって改修が行われた。しかし、空調設備がなく、安全性に問題があることから、利用されなくなっていた。

2021年、大阪市立大学140周年記念事業のひとつとして、講堂を現代の教育環境にふさわしい、学内外問わず広く活用される施設として改修し、大阪市立大学140周年記念講堂として生まれ変わった(写真1)。

◆創建当初の意匠の継承

1号館は登録有形文化財の建造物であるため、文化庁の補助事業として、創建当初の意匠に配慮した改修を行った。まず、天井の形状は、平成の改修時に水平に変

更されていたが、勾配のある創建当初の船底の形状に復元し(写真1)、照明器具については写真を基に当初のシャンデリアを復元した(写真3)。さらに、袖のある舞台は撤去し、創建時と同様に開放型のステージとした。文化財として貴重な奉安庫は原位置でそのまま保存している(写真8)。講堂内部の壁のタイル(写真4)や、出入口前控室の壁の石材(写真5・6)は当初のものであることが確認されたため、そのまま保存している。

◆現代の講堂に必要な機能の充実

講演会や講義室としての利用に適正な残響時間となるよう内装材を選択するとともに、出入口扉を遮音性の高いものにし、音響設備・映像設備も設置した。

室内環境向上のため、断熱性を高めるとともに、空調設備を設置し、照明も利用状況に応じて調節できるものとした。また、誰でも安心して利用できるように、勾配のあった床に下地を組み、平坦な床に改修した。

2022年4月に大阪市立大学は大阪公立大学として新たにスタートする。これからも様々な催しがこの講堂で行われ、新たな歴史の舞台となることであろう。

(施設課 於勢美和)



140周年展と大学史資料館(大学博物館)
実現にむけてご寄附のお願い →大阪市立大学夢基金
お申込み時にTOP1「創立140周年記念事業」を選択してください
【お問い合わせ】ステークホルダー連携推進室(夢基金担当) TEL 06-6605-3415
<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/fund/xbtf2s>

編集発行
(仮称)大学史資料館設立準備委員会
学術情報総合センター6階 大学史資料室内
TEL: 06-6605-3261



写真3：過去の写真をもとに復元されたシャンデリア



写真4：テラスへ上がる階段の壁面のタイル 創建当時の状態で残されている。



写真5：石灰岩の石材が用いられている入り口控え室の壁面



写真6：石灰岩中に見られる巻貝の化石（幅23mm）
この石灰岩には空隙が多く、巻貝や二枚貝の化石が含まれる。

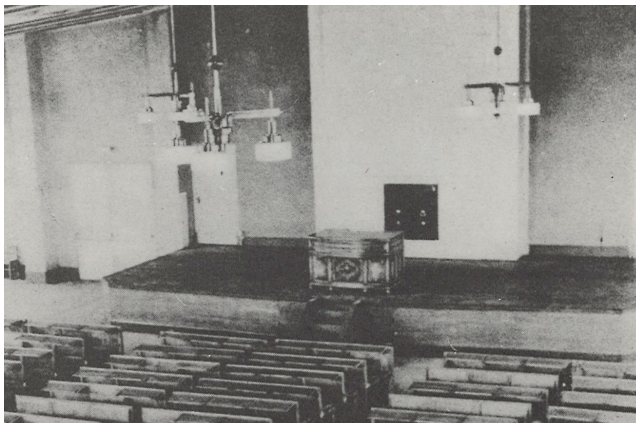


写真7（左）：舞台の後ろに設置されていた奉安庫（1954年）

写真8（右）：現在の奉安庫

※奉安庫とは、第2次世界大戦前の学校に設置されていた施設で、当時の天皇・皇后の写真、教育勅語が安置されていた。学校生活や式典において、忠君愛国の精神の養成と教育勅語の趣旨の浸透を目的として用いられた。



壁面の扉を開けると、そのままの外観が残されている。



準備室だより

◆140周年記念展示室が2020年11月3日に開室しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、事前予約が必要です。今後の開室予定は、大阪市立大学ホームページでお知らせします。◆これまでの「NEWS LETTER」は、大阪市立大学 学術情報総合センター ホームページの学術機関リポジトリでも公開しています。「大学史資料館」で検索してください。◆この「NEWS LETTER」は今号をもって最終号となります。大阪公立大学になっても大学博物館を目指して、活動は続きます。

（仮称）「大学史資料館」設立 準備委員会からのお願い

現在、学内にある資料の所蔵調査を行なっています。学術資料そのもの、研究の過程で残された資料類、実験装置や器具類、実習に用いられた教材や作品などを、大学史にかかわる資料とともに探しています。候補となる資料がありましたらご一報ください。

→学術情報総合センター6階 大学史資料室内 TEL：06-6605-3261